

「ラヂオ塔」を訪ね歩く

吉井 正彦
メディアプロデューサー、民博元常務員教授

ラヂオ塔を囲んでの野球中継聴取風景。
京都・円山公園にて(当時)



明石でまち歩きの中で、市役所北側の中崎公園にクリーム色の塔を見つけた。「ラヂオ塔」の表示はあるが案内板がない。市役所に飛び込んで、相談係や文化財係に聞いたが知らないという。公園係がようやく探し出したのが、十数年前の壁面塗り替え時の記録だった。京都・円山公園はじめ、いくつかは知っていたが、まとまった記録がないことがわかり、京阪神を手始めに調査に歩き始めた。放送史のなかで埋もれていた

ラヂオ放送の開始は東京放送局(AK)が大正二四年三月三日(仮開局、本放送は七月二日)。この日がNHK放送記念日となっている。大阪放送局(BK)は三カ月遅れて六月一日に開局(本放送は翌年二月二日)。すでに八十余年になる放送史上でも、「ラヂオ塔」は、部の局史に記述があるものの、注目されることはなかった。NHK放送博物館には展示がなく、まとまった資料もなく、NHK職員や各地の郷土史担当者も「ラヂオ塔」のことは初見だという。「ラヂオ塔」は、福岡・春日小学校では校歌に歌われ、三重県熊野市では桜の名所として登場するが、それらは送信アンテナを指している、それとは違う。

はじまりは関西から

書面上は「公衆用聴取施設」とよばれていた。標準型は四角形の石造りか木製で、高さ二・八、幅一・五メートル。なかには受信機が入っていて、地元局の放送を受信。上部四方の窓にはスピーカーが内蔵されていて、お腹あたりのボタンを押すと、放送が一〇分間流れて自動的に切れた。

昭和五年六月二五日、大阪放送局が天王寺公園旧音楽堂跡に設置したのが全国初(大阪放送局の年表では「八月一日」と記述)。塔の周りには、昭和三年に(全国放送は翌年二月から)はじまっていたラヂオ体操に愛好家が集まり、また、早慶戦や中等学校野球大会、大相撲などのスポーツ中継には人だかりができた。その姿は、昭和一〇年代のBKの広報映画に数秒映っているのが昨年判明したが、塔の終焉については、公園事務所にも記録が見られない。

翌六年には、奈良公園猿沢の池端、神戸・湊川公園、七年には京都・円山公園と関西での設置が続き、七年二月の聴取契約一〇〇万件突破を機に全国に拡大。公園や広場、神社境内などに設けられた。一四

〜一五年度に急増するが、日中戦争の時期に符合。おりしも各地の新聞は、新聞用紙供給制令(二三年九月)による廃刊が続出。内閣情報局主導による一県一紙への整理・統合で、一二四紙(三年九月)が五四紙へ(二七年二月)。その背景には報道統制の意図があったことがうかがえるが、戦時中の放送は戦意高揚のためにも利用され、一六年二月八日太平洋戦争開戦のニュースを、「ラヂオ塔」の前で聞いた人も多かったことだろう。『ラヂオ年鑑』によれば、一七年版では全国三四六カ所、一八年版ではその後さらに二一カ所となっているが、翌年以降は年鑑の発行がなく一覽表が見られない。戦況激しくなるとともに、受信機やスピーカーなどの金属回収もあり、設置は一七年度が最後と見られる。そのころの契約数は六〇〇万。一九年度には戦前のピーク七四七方に達した。思い返せばテレビ開局時、プロレス中継で観客を集めた「街頭テレビ」の光景が折り重なって見えてくる。ラヂオもテレビも新聞同様に世論操作に利用され、また、「販促手法」として活用され、歴史は繰り返されていたのだ。

関西を歩いてみると

「ラヂオ塔」は放送協会が設置し、地元へ寄付するのが基本だが、躯体は地元自治体が設置し、受信機とスピーカーは協会が寄贈したところも。地元篤志家一人で、また、近隣数人での寄付になるところもあり、これら、周辺にはさまざまな物語が埋もれていて、聞きとりができるのも今のうちだ。

塔本体は京都では、円山公園、船岡山公園、橘・紫野柳・小松原・萩の児童公園、八瀬公園、御射山公園など八カ所に現存。大阪では大阪城公園、中之島公園に現存。住吉公園ではデザインを一新して再建され(平成五年一〇月)、堺・大浜公園ではこの春レプリカが再興され、夏にはラヂオ体操が復活する。兵庫では、神戸・湊川公園、尼崎・庄下畔公園、明石・中崎遊園地(当時)、姫路・姫山公園、神戸・東遊園地、甲子園球場前、宝塚公園、洲本、有馬町役場前、阪急沿線伊丹などのリストがあるなか、明石に唯一現存しており、市の都市景観賞を受賞している(平成二二年一〇月)。

奈良、和歌山、滋賀にも設置の記録はあるが現存しない。

このほか、横浜・野毛山公園、前橋・前橋公園(文化財指定)、金沢・兼六園、新潟・白山公園、静岡・清水公園、松江放送局前、徳島城址公園などに残っている。

今後の活用と展開は

現在放送を流しているのが新潟・白山公園、大阪・住吉公園。かつては学区や町内会単位でおこなわれていたラヂオ体操を再開し、地域コミュニティの再構築に活用するべく、再興への動きが始まっている。また、災害時の情報メディアの複層化の要請からも、災害対策として整備されている行政防災無線を組み込むことで、そのシンボルとしての役割も期待されている。



大阪・住吉公園
(平成5年再興。デザインは一新)



横浜・野毛山公園(現存)



堺・大浜公園(平成23年3月再興)



明石・中崎公園
(三面に「ラヂオ塔」と「明石市」の表示)